



危機と目覚め

Crisis Precedes Awakenings

永田 円了

人は何のために生きるのか。生きがいを見つけたい。マンネリ化した日々の中、この生きがいを見つけることは並大抵なことではない。エゴの仕切る世界にすっかり浸かった人間の頭は頑固だ。そこで、天の大きな力が動く。生きるとはどういうことなのかを知らしめるために、人間に出来事をもたらす。それも最も悲劇的な形をもって。

生命は水から生じた。その後、水の面積が狭められ（危機）、生命は陸に上がる決断をし（目覚め）、哺乳類として今に至っている（エックハルト・トール）。パレスチナでは、親殺し、子殺しなど、家族間の殺し合いはありえない。戦争は最大の悪、しかし命の尊さを教えてくれる（塩野七生）。

東日本大震災と津波で、自宅、会社、すべてを失った（危機）。しかし、そのときに目覚める。ああ、生きててよかった！お陰で今まで会社の利益ばかり考えていた自分におさらばできた（印刷会社社長、熊谷氏）。

エゴの正体

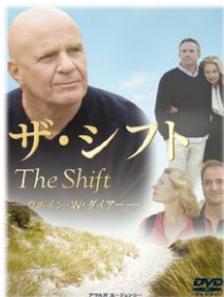
人は親や社会から、物事の価値や道理を学んでゆく。成果を上げ、その蓄積のうえにある幸福を思い描くようになる。私たちの「エゴ」は、そのようにして形成されてゆくのである。

エゴは言う。お前の価値は、お前が何を持っているのか、どのような肩書きがあるのかで決まる。所有物が多ければ多いほど豊かである。もっともっと豊かになれ、とエゴは呪文のように求める。しかしどれだけ豊かになっても、隣がより多くの持っている、ねたむ。エゴは競争社会を舞台に、このように絶えず走り続けているのである。



価値観が逆転する Quantum Moment

人はある出来事を境に意識が逆転する瞬間（クオラム・モーメント Quantum Moment）がある。価値観のそれまでの優先順序（男性の場合）は、1.お金 2.冒険心 3.功績 4.快樂 5.尊敬を得ること、であった。それが、1.スピリチュアリティ 2.安らぎ 3.家族 4.神の意志 5.正直でいること、に逆転する。



女性の場合は、1.家族 2.自立心 3.キャリア 4.帰属意識 5.魅力、だったものが、1.自己の成長 2.自尊心 3.スピリチュアリティ 4.幸せ 5.許し、に逆転するという（ウエイン・ダイアー『ザ・シフト』より）。

意識が、お金で象徴される外的世界から、“スピリチュアリティ”、内側の世界にシフトされる。また女性の場合、家族内の役割（女性は内の発想）から、もっと人間としての可能性をめざす“自己の成長”へと意識が変化するのである。

一見悲劇的に見える出来事が、人の意識の変容（目覚め）にとって、欠かせないものとして作用しているのである。

<事例 DVD>

黒澤明監督『生きる』1952年、死に直面して、目覚める
米映画『素晴らしき哉、人生』1946年、命は一人のものではない
エックハルト・トール『危機と目覚め』2013年
ウエイン・ダイアーとの対談より
ウエイン・ダイアー『ザ・シフト』2009年、源に戻る
熊谷雅也、“生きててよかった”NHK「こころの時代」2011/5/22
歌・Song Inside “耳を澄ませば” by Ethan Lipton

円了のホームページ：www.enryo.jp

